

# 機構外研究発表等の一覧

2025年度

件 名	氏 名 ○印は発表者 *印は機構外の共同研究者	講演会等
LED 灯であることが及ぼす舷灯(紅灯×緑灯)への影響 -オストワルト色相環に基づく補色との比較-	○佐々木亮、加藤由季	公益財団法人 日本航海学会 第152回講演会・研究会、2025.6.5
他船との衝突妨害領域を用いた避航操船の教育に関する基礎的研究	前畑航平*、○鈴木大介、清水健一*、加藤由季、高嶋恭子(東海大学)*、榎野純*	公益財団法人 日本航海学会 第152回講演会・研究会、2025.6.5
自律運航船などの漁船対応の評価に関する基礎的研究	○前畑航平*、鈴木大介、清水健一*、加藤由季、高嶋恭子(東海大学)*、榎野純*	公益財団法人 日本航海学会 第152回講演会・研究会、2025.6.5
T(追従性指数) K(旋回性指数)を用いた操船時の航走距離及び時間の推定法に関する研究	○佐々木利章、大坂篤志、杉田和巳	公益財団法人 日本航海学会 第152回講演会・研究会、2025.6.5
自動運航船の機関室等に対する状況認識支援の研究 第2報 船上オペレータと陸上熟練者および専門技術者との共通認識の形成	○東福守、荒川修一、杉本文太、河合和彦、疋田賢次郎*、沼野正義*、石村恵以子*	第95回マリンエンジニアリング学会学術講演会、2025.10.29
自動運航船の推進機能の維持の検討 第2報 自動運航船の一機能としての推進機能のモデル化	○東福守、荒川修一、杉本文太、河合和彦、疋田賢次郎*、沼野正義*、石村恵以子*	第95回マリンエンジニアリング学会学術講演会、2025.10.29
操船シミュレータを用いた内田クレペリン検査における避航インシデント発生群の分析	○齊藤学、竹本孝弘*	日本航海学会 第153回秋季講演会(富山開催)、2025.10.18~2025.10.19
避泊視点における気象情報の利活用に関する研究-風向・風速のMSM 解析値と海上観測値の比較-	○大井一道	日本航海学会 第153回秋季講演会(富山開催)、2025.10.18~2025.10.19
船員の墜落制止用器具特別教育における自己主導型教材の設計と学習意欲の調査に関する研究	○田中賢司、石丸義樹、大坂篤志、齊藤学、佐々木亮、宮田亮史、町田健三、石橋諒大	日本航海学会 第153回秋季講演会(富山開催)、2025.10.18~2025.10.19
自動運航船の遠隔操船者に求められる地文航法に関する一考察	○清水悦郎*、梅田綾子*、佐々木利章	日本機械学会2025 年度年次大会、2025.9.8
インターネット時代の通信に関する新資格制度の提案	○霜田一将、鈴木治*、吉田南穂子*	日本航海学会 第153回秋季講演会(富山開催)、2025.10.18~2025.10.19
小型船舶の機関故障による船舶事故やインシデントの潜在的要因に対する計量テキスト分析および安全対策の検討	○菊地和満、山田紀昭*、伊藤誠*	第95回マリンエンジニアリング学会学術講演会、2025.10.29
衛星航法装置への電波妨害検知に関する試行的実験	○奥富雄司、久保信明*	日本船舶海洋工学会 令和7 年秋季講演会(姫路市開催)、2025.11.17~2025.11.18
陸上支援要員と船上技術者のチーム訓練方法の検討	○長谷川雅俊	第95回マリンエンジニアリング学会学術講演会、2025.10.29
漁業分野における外国人受け入れに関する課題と展望	○万谷小百合	第14回 日本海洋人間学会大会、2025.11.5
英語を用いた船舶 VHF 無線通信中に生じる高リスクな誤解の要因	○水島祐人	日本教科教育学会 第51 回全国大会、2025.11.16
IGF訓練の現状とLNG Bunkering Simulatorについて	○多田昇平、中島敦貴	令和7年度 日本船舶機関士協会 技術講演会、2026.2.18

# 機構外研究発表等の一覧

2024年度

件名	氏名 ○印は発表者 *印は機構外の共同研究者	講演会等
船上教育訓練の現状と今後の教育訓練に対する展望と課題	○杉本一平、村井康二*	日本人間工学会 関東支部第53回大会、2023. 12
指向性ヘリカルアンテナを用いた妨害低減効果の検証実験	○奥富雄司	一般社団法人測位航法学会全国大会研究発表会2024、2024. 5
兵庫県下における PM2.5 成分の長期測定データを用いた船舶排ガス影響の解析	○加納かおり*、二村綾美*、大下佳恵*、中坪良平*、松村千里*、吉田光方子*、楠将史、吉田明輝、速水健斗、今吾一、岡村秀雄	第65回大気環境学会年会、2024. 9
客観的臨床能力試験（OSCE）を活用した新人航海士の教育訓練プログラムの開発に関する研究	○杉本一平、村井康二*	日本人間工学会 第65回大会、2024. 6
英語を用いた海上 VHF 無線通信中に生じるコミュニケーション上の誤解—日本人英語学習者に対する海事英語教育の視点から—	○水島祐人	中国四国教育学会第76回大会、2024. 11
海技丸における機関運転データ項目の相関関係に関する研究	○中村雄史、長岡晋也、新垣流星、齊藤学、宮田亮史、門屋康平	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
海技大学校における機関室シミュレータを用いた教育・訓練の取り組み	長谷川雅俊	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
船体防汚塗料による生物付着防止効果に関する研究	○門屋康平、大坂篤志、佐々木利章、宮田亮史、長岡晋也、新垣流星、山崎涼太郎*、三重野紘央*	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
ナットサイズの判別能力試験に関する追試研究	○菊地和満、伊藤誠*	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
廃食油の乳化による再利用およびその調製手法の現状と展望	○三原悠、段智久*	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
発泡スチロールの漂着とその処理について	○三原伊文*、山口伸弥*、幸田三広*、松岡大祐*、三原悠、川原秀夫*	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
自動運航船の機関室等に対する状況認識支援の研究 -第1報 状況認識支援システムの概要-	○石村恵以子*、沼野正義*、疋田賢次郎*、東福守、荒川修一、杉本文太	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10
マルチエージェントを用いた船舶管理支援システム -第9報 静的・動的情報の統合-	○沼野正義*、疋田賢次郎*、石村恵以子*、東福守、荒川修一、杉本文太	マリンエンジニアリング学術講演会、2024. 10

# 機構外研究発表等の一覧

2023年度

件名	氏名 ○印は発表者 *印は機構外の共同研究者	講演会等
船員に求められる情報教育のあり方に関する研究	○霜田一将、鈴木治*、吉田南穂子*	第12回日本海洋人間学会大会、2023. 9
Study on low-voltage onshore power supply service in port and ships engaged on coastal shipping in Japan	○JUN SUEYOSHI, YUTAKA EMI and MINORU TSUDA*	AMEC2023(Advanced Maritime Engineering Conference), 2023.10
A Corpus-Based Study of the Disciplinary Variations in Lexical Bundles of Maritime English	○Yuto MIZUSHIMA	ECLL 2023 (The 11th European Conference on Language Learning), 2023. 7
Study on Education and Training Methods to Enhance Non-technical Skills of OICNW Using the Psychological Test	○Manabu Saito, Takahiro Takemoto	TransNav 2023 Conference, 2023. 6
人間の状況認識モデルを用いた避航操船における船員のタスク分析	○西崎ちひろ*、榎野純*、加藤由季、吉村健*、村井康二*	日本航海学会第148回講演会、企画セッション
解説 船員スキル定量化事業の取組と成果	村井康二*、田丸人意*、万谷小百合、前田潔	マリネンジニアリング、58(5)、661-666、2023

2022年度

件名	氏名 ○印は発表者 *印は機構外の共同研究者	講演会等
航海当直における状況認識能力を高める教育手法に関する研究	○齊藤学、中濱凜、片倉広暁、竹本孝弘*	日本航海学会第144回講演会、2021. 5
海事英語語彙表における語の適切な配列－船員教育機関の英語学習者の語彙習熟度を踏まえて－	○水島祐人	中国地区英語教育学会
船舶排ガス中に含まれるPMの有機汚染物質について	○吉田明輝、速水健斗、楠将史、今吾一、坂本和暢*、松村千里*、高石豊*、中坪良平*、岡村秀雄*	マリネンジニアリング学術講演会、2022. 10
船舶排ガス中に含まれるPMの主要成分について	○楠将史、吉田明輝、速水健斗、今吾一、二村綾美*、大下佳恵*、松村千里*、高石豊*、中坪良平*、岡村秀雄*	マリネンジニアリング学術講演会、2022. 10
加圧下における連続運転を可能とする新規二流体混合装置の基本特性	○三原悠、鈴木一志*、小野圭介*、伊藤大基*、浅野一朗*、段智久*	マリネンジニアリング学術講演会、2022. 10
船舶の室内空気質向上について	○河合和弥、末廣尋美、大賀伸一*、濱田浩道*	マリネンジニアリング学術講演会、2022. 10
実務経験がナットサイズ判別技能に与える影響	○菊地和満	マリネンジニアリング学術講演会、2022. 10
海技大学校における機関室シミュレータを用いた教育・訓練の向上に関する取り組みの紹介	○吉原広太郎、近藤宏一	マリネンジニアリング学術講演会、2022. 10
A Study on Maritime Education and Training – Self-Evaluation, Mutual Evaluation and Multistep Evaluation –	Yoshiaki KUNIEDA*, Akihiro NUNOME*, Yoshihiro Majima and Hideyuki KASHIMA*	Asia Navigation Conference 2022, 2022. 11
Study on Educational Methods to Enhance Non-technical Skills required for the Officers in charge of a Navigational Watch	Manabu SAITO and Takahiro TAKEMOTO*	Asia Navigation Conference 2022, 2022. 11
船舶機関プラントで発生するヒヤリハット等の事例研究	○菊地和満	日本品質管理学会第128回研究発表会、2022. 5

## 機構外発表一覧

2021 年度

題 名	氏 名 ○印は発表者 *印は学外の共同研究者	機 関 名
航海当直における状況認識能力を高める教育手法に関する研究	○齊藤 学、竹本 孝弘*	日本航海学会第 144 回講演会
Engineering routine remedial work in manned machinery spaces ship – challenging for maritime autonomous surface ships	○中島 惇貴、恵美 裕	International Maritime Lecturers' Association (IMLA) 2020 Joint Conference with IMEC32, ICERS15 and INSLC21
Utilization of Non-verbal language in the engine room training	○村松 渚沙、恵美 裕	International Maritime Lecturers' Association (IMLA) 2020 Joint Conference with IMEC32, ICERS15 and INSLC21
AIS 導入以降の VHF 帯無線チャンネル割当て変遷と今後	○霜田一将、岡村知則、鈴木治*	日本航海学会学会誌 Navigation218 号
新人機関士に対する ERM 訓練の学習成果の検証	○吉原 広太郎、近藤 宏一	第 91 回マリンエンジニアリング学会学術講演会
ナットサイズの見誤りに関する研究	○菊地 和満	第 91 回マリンエンジニアリング学会学術講演会
解説 練習船海技丸の機関運転データに基づいた経年変化に関する研究	○中村 雄史、長岡 晋也、藤原 宏	日本マリンエンジニアリング学会誌 Vol.56 No.5 2021 SEP
船上における地上デジタルテレビの受信手法に関する研究	○霜田一将、岡村知則、鈴木治*	日本航海学会第 145 回講演会
The Effect of Hybrid Training Combinedwith on Demand Classes	丹羽祥二郎、Sann Dee*、○國枝佳明*、鹿島英之*、村井康二*	Advances in Social Sciences Research Journal Vollume8,No9 September2021
ブレンド型授業の試みー実習前後のオンデマンド授業の効果ー	伊藤友希、○國枝佳明*、鹿島英之*、村井康二*	日本創造学会第 43 回研究大会
Effects of introducing ship handling training for collision avoidance in anchoring training – Effects of ship handling training for collision avoidance by group work –	細見巧、Sann Dee*、○國枝佳明*、鹿島英之*、村井康二*	ASIA NAVIGATION CONFERENCE 2021
Case Study of Incidents and Near Miss Incidents in Engine Room	○菊地 和満	ISMT2021 (International Symposium in Marine Engineering & Technology 2021)

2020 年度

題 名	氏 名 ○印は発表者 *印は学外の共同研究者	機 関 名
On the Possibilities of Multi-lingual Application of Voice Tra for Maritime English Education in Marine Technical College	○田中賢司、杉田 和巳	2020 IEEE ICCE-Taiwan
練習船海技丸の機関運転データに基づいた経年変化に関する研究	○中村雄史	第 90 回 (令和 2 年) マリンエンジニアリング学会学術講演会
船舶の運航における画像計測技術の活用	○吉原広太郎、山本茂広*、橋本岳*	日本マリンエンジニアリング学会誌 9 月
A study of detecting for dragging anchor	○齋藤 瑛	ASME 2020 39th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE202, Virtual, Online
「船員の常務」と「注意深い船長」の解釈の相違「船員の常務」数値化の問題	○万谷小百合、藤本昌志*	海事法研究会誌 2020・11 (No. 249)
C 重油及び A 重油使用時の船舶から排出される PM の実船観測	○今 吾一、楠 将史、吉田明輝、速水健斗	大気環境学会 第 61 回大気環境学会年会
練習船海技丸の機関運転データに基づいた経年変化に関する研究	○中村雄史	第 90 回 (令和 2 年) マリンエンジニアリング学会学術講演会 講演論文集
Mental Workload of Simulator-based Training Using a Physiological Index: The Relationship between Trainers and Trainees	○戸羽政博	IEEE SMC 2020 10/11~14
機関室シミュレータを用いた教育訓練の紹介-訓練指針に基づく訓練の有効性-	○吉原広太郎	第 90 回日本マリンエンジニアリング学会学術講演会
新たな海洋教育 -with コロナ時代に向けて-	中濱 滉、○國枝佳明*	日本創造学会 第 42 回研究大会
新型コロナウイルス禍における乗船実習について-練習船大成丸の対応-	霜田一将、竹本航平、尾辻克明、中野弘也、岡村知則	日本航海学会学会誌 NAVIGATION 第 215 号
船上での地上デジタル放送の難視聴改善手法	○霜田一将、岡村知則、鈴木治*	電子情報通信学会 2021 年総合大会
太陽電池及び燃料電池の船舶電源や電気推進システムへの導入に関する研究	○角 和芳	日本マリンエンジニアリング学会誌第 56 巻、第 2 号

2019 年度

題 名	氏 名 ○印は発表者 *印は学外の共同研究者	機 関 名
指針と手法を収束する英文学	田中 賢司	日本英文学会第 91 回全国大会
MAIB による英文事故報告書を用いた海事英語教育について	田中 賢司	第 140 回日本航海学会
対称形状の分岐を伴う細管内気液二相流の分流特性に関する研究	近藤宏一、○吉田憲司*	日本混相流学会混相流シンポジウム 2019
航行中の船舶から排出される PM の成分組成	今吾一、楠将史、吉田明輝、速水健斗、松村千里*、 羽賀雄紀*、中坪良平*、岡村秀雄*	日本エアゾル学会第 36 回エアロゾル科 学・技術研究討論会
船舶エンジン排ガス中の有機汚染物質分析	今吾一、楠将史、吉田明輝、速水健斗、松村千里*、 羽賀雄紀*、中坪良平*、岡村秀雄*	日本水環境学会第 22 回日本水環境学会 シンポジウム (2019 年度)
小学生を対象とした海洋教育に関する研究	我妻三耶子、○國枝佳明*、梅澤辰之進*	第 8 回 日本海洋人間学会 学会大会
フジボ付着期幼生の船底着生を水中青色 LED 光源で防ぐ基礎実験	河合和弥、○中西勇斗*、三村治夫*、廣野康平*	第 89 回マリンエンジニアリング学会学 術講演会
ディーゼル機関からのススの変異原性と多環芳香族炭化水素の関係	○速水健斗、吉田明輝、楠将史、今吾一、松村千 里*、羽賀雄紀*、中坪良平*、岡村秀雄*	第 89 回マリンエンジニアリング学会学 術講演会
機関室シミュレータを用いた教育訓練の紹介と今後の展望について	吉原 広太郎	第 89 回マリンエンジニアリング学会学 術講演会
燃料電池の大形船舶への導入に関する基礎検討 -燃料電池の排熱利用の検討-	角 和芳	2019 年度日本太陽エネルギー学会研究 発表会
On Seafarer Cultures and Maritime Civilization —The Significance of Maritime English as ESP—	田中 賢司	World Maritime Conference 2019
加速度計を用いた走錨の検知に関する基礎的研究	齋藤 瑛	第 141 回日本航海学会
衝突のおそれ・避航動作・適用航法決定過程の相違	○遠藤小百合、藤本昌志*	第 141 回日本航海学会

船舶から排出される PM 及びその主要成分の特徴	今 吾一、楠将史、吉田明輝、速水健斗、松村千里*、羽賀雄紀*、中坪良平*、岡村秀雄*	大気環境学会第 60 回大気環境学会年会
RANCHING CHARACTERISTICS ON GAS/LIQUID TWO-PHASE FLOW IN NARROW CHANNEL WITH T-JUNCTION	近藤宏一、○吉田憲司*	The 30th International Symposium on Transport Phenomena (ISTP30)
実習生を対象とした指差呼称の効果に関する研究	楠将史、○吉村健志*、疋田賢次郎*	日本人間工学会東海支部 2019 年研究大会
A Noteworthy Case of MAIB Safety Report on Maritime English Education	田中 賢司	Asia Navigation Conference 2019
Evaluation of Mental Workload for Simulator Training Using Physiological Index: Relationship between Trainers and Trainees	戸羽政博	Asia Navigation Conference 2019

2018 年度

題 名	氏 名 ○印は発表者 *印は学外の共同研究者	機 関 名
外航船における船舶遠隔健康管理システムの試み	○福田 直子*、庄司 るり*、芦田 研二*、亀山 ころろ*、井野宮 興志*、佐久間 利彦、天野 善昭	第 91 回日本産業衛生学会
北極海航路の安全航行のための運航実務に関する基礎検討（整備実務編）	○大貫 伸*、巢籠 大司、遠藤 小百合	日本航海学会第 138 回講演会
キプロス幼生の青色 LED 光源への誘引を利用した照射面の防汚	○中西 勇斗*、三村 治夫*、廣野 康平*、矢野 吉治*、河合 和弥	2018 年度日本海水学会第 69 年会
CHARACTERISTIC ANALYSIS OF SITUATION RECOGNITION- Characteristics of Inexperienced Officer of Watch as a Decision Maker-	○村田 信、貝塚 友規、長瀬 光司	18th Asian Conference on Maritime System and Safety Research (ACMSSR 2018)
Analysis of Organic Pollutants Contained in Soot from Ship Diesel Engines	○ C MATSUMURA*、 Y HAGA*、 R YOSHIKI*、 R NAKATSUBO*、 G KON、 H OKAMURA*、 T DAN*、 T TOJO*、 H HASEGAWA*、 T MIYAWAKI*、 T NISHINO*、 T NAKANO*	38 <sup>th</sup> International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants Dioxin 2018 & 10th International PCB Workshop
海事英語と CEFR レベル ESP についての船員の自己評価について	○田中賢司	IMLA25-MEC30 International Maritime Lecturers' Association Conference 25 including International Maritime English Conference 30
船舶エンジンすす中の有機汚染物質分析	松村 千里*、羽賀 雄紀*、吉識 亮介*、中坪 良平*、岡村 秀雄*、段 智久*、東條 俊樹*、長谷川 瞳*、宮脇 崇*、西野 貴裕*、中野 武*、今 吾一	第 21 回日本水環境学会シンポジウム (2018 年度)

各種船舶間航法適用の前提条件についての考察 —漁ろうに従事している船舶の灯火を中心に—	○遠藤 小百合、藤本 昌志*、藤原（森田）紗衣子*、小西 宗	第 139 回日本航海学会学術講演会
船用ディーゼル機関からのススの変異原性と多環芳香族炭化水素	楠 将史、吉田明輝、速水健斗、今 吾一、岡村秀雄*、段 智久*、羽賀雄紀*、松村千里*	第 88 回（平成 30 年）マリンエンジニアリング学術講演会
多眼パンチルトカメラを用いた船舶の全方位ステレオ位置計測の提案	○吉原 広太郎、山本 茂広*、橋本 岳*	第 88 回（平成 30 年度）マリンエンジニアリング学術講演会
Do marine protected areas have lower overfishing level?	Adi Yunanto*、Hikmat J. Wiguna*、Sayuri Endo、Erick Nugraha*、Yusrizal*、Yaser Krisnafi*	Aquaculture, Aquarium, Conservation & Legislation, International Journal of the Bioflux Society Romania, European Union, Europe. Volume 11(5)/2018
燃料電池の大形船舶への導入に関する基礎検討	○角 和芳	平成 30 年度日本太陽エネルギー学会/日本風力エネルギー学会合同研究発表会
Study on Effective Training for Anchoring	Atsushi OSAKA、○Yoshiaki KUNIEDA*、Hideyuki KASHIMA*、Koji MURAI*	Asia Navigation Conference (ANC) 2018
Empirical study on usability of navigational instrument – recommendations based on questionnaire survey results on the near-miss cases relate to navigational instruments –	○森 勇介、長谷川 恭通、巢籠 大司、吉本 誠義	The 16th World Congress of the International Association of Institutes of Navigation 2018
Empirical research on the improvement of usability of navigational instruments – recommendations based on questionnaire survey results on the convenience of navigational instruments -	○長谷川 恭通、森 勇介、巢籠 大司、吉本 誠義	The 16th World Congress of the International Association of Institutes of Navigation 2018
A Convergent Application of Multiple Concepts to Teaching English for Specific Purposes	○田中 賢司	The 16th World Congress of the International Association of Institutes of Navigation 2018
Evaluation of Navigational Fusion System between ARPA and AIS	○奥田 成幸	The 16th World Congress of the International Association of Institutes of Navigation 2018

2017 年度

題 名	氏 名	誌 名
Introducing on-board type engine-room simulator bout how to use in training ship	出口 一朗	International Symposium on Marine Engineering (ISME) October 15-19, 2017
IGF コード適用船舶に乗船する船員に対する STCW 条約訓練について	松崎 範行	船舶・輸送・海上の安全に関するシンポジウム (第 2 回)「燃料由来の事故防止についての現状と今後の課題」
海事教育における異なる種類のアクティブラーニング型授業	水溜 青雲	日本創造学会第 39 回研究大会
近海航路域内に棲息する外来フジツボ幼生の実態調査	河合 和弥	第 54 回好塩微生物研究会